

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608974		
法人名	社会福祉法人 県南ふくし会		
事業所名	ピアホームかたくりの里		
所在地	秋田県仙北市桧木内字高屋91-1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ピアホームかたくりの里は自然に囲まれ、ゆったりと安心して生活できるような環境作りを努めております。ホーム前には畑もあり、職員とご利用者が一緒に作業をし収穫した野菜などは献立に取り入れ、季節の旬のものを味わっております。また、くもん学習療法にも取り組んでおり、認知症状の緩和や日常の楽しみ、コミュニケーションツールとして活用しております。ご家族との連携も密にし、月1回「家族通信」をご利用者一人一人について作成し、各ご家族へ送付しております。写真を入れ、日頃の表情や活動がわかるように、各担当職員が手作りで作成しております。日々の記録を充実させており、身体状況だけでなく、毎日の表情や言動、思い等も記録し、スタッフが情報を共有しケアに活かせるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームや複数の事業所が広い敷地内に整備され、ホームとも相互に関わりを持ちながら、自然豊かな環境を活かして利用者に寄り添ったケアが実践されています。コロナ禍にあり、面会や外出の自粛等、制限の多い生活となっておりますが、利用者が外気に触れることができる機会の創出に取り組み、また、そのような状況下でも保育園児が敷地内に散歩に訪れたり、中学校校庭での催しに声をかけていただく等、間接的な交流は続いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	県南ふくし会、ピアホームかたくりの里の理念、事業方針をホーム玄関に掲示するとともに日常的に申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等を通して理念や事業方針の確認を行っている。	在籍期間の長い職員が多く、理念のイメージを共有して利用者一人ひとりに合った対応を意識し、利用者本位の支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策の為地域の方との交流を中止している。来年度は感染対策しながら交流の機会を作っていく。	コロナ禍により、子供達や地域との交流が難しい状況ですが、以前は小中学校の行事に参加したり、保育園児と一緒に畑作業も行っており、コロナ収束後の再開を心待ちにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」の窓口として対応している。また運営推進会議の際に、地域の方との情報交換や様々な情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策の為書面での会議としており事業所での日頃の活動や事故報告、受診状況、介護度状況、入居申込状況、施設内研修報告し委員の皆さまから意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	対面会議は中止しており、資料を会議メンバーに送付して意見をいただき、会議内容は職員にも周知されています。いただいた意見がサービスの向上に繋げていけるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターへ認知症なんでも相談の報告、また、福祉事務所担当とご利用者の状況を報告し連携を図っている。	包括支援センターとはケアマネネットを通じて日頃から連携が図られている他、関係部署とも協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待をしないケアについて、施設内での勉強会にて学んだり、マニュアルを良く把握し、身体拘束や虐待禁止に取り組んでいる。	研修を通じて理解を深め、会議の中でも言葉遣い等の事例をあげて話し合い、身体拘束、虐待のないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、法人内の勉強会等、必要に応じ活用できるよう取り組んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退去の際は、ご家族やご利用者の話をよく聞き、十分説明をし納得、了承を得た上で契約や解除等を行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口として開設者及び管理者の他、同敷地内に併設する事業所で共同の第三者委員を設置している。また、行政機関やその他苦情受付窓口として介護保険事務所、国保連、市町村もあることをご説明し、ホーム内にも掲示している。また、ご家族、ご利用者からの意見や要望等はその都度話し合いの機会を設け、運営やケアに反映している。	コロナ禍でもあり、家族とは電話で話すことが多いものの、意見が反映できるよう取り組んでいます。管理者だけではなく担当職員も家族と積極的に関わり、良い関係づくりに努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	日常的に申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等で意見や提案を聞いている。スタッフ会議の際は職員一人一人の意見や思いを聞き、運営やケアに反映させている。	話がしやすい環境にあり、職員の意見や提案がホームの環境改善に繋がる等、運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北グループホーム連絡会に加盟している。昨年に続き、感染対策の為外部研修は中止となるがオンラインでの研修に参加できる環境を整え現在、オンライン研修に参加し同業者との情報交換等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや相談の際、十分にお話を聞き対応している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや相談の際、十分にお話を聞き対応している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するものとして、喜びや悩みなどを分かち合い、ご利用者の能力を生かせるような援助を心がけている。また、日常の業務にとらわれすぎず、ご利用者のペースを大切に支援している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話、家族通信等にてこまめに状況報告を行っている。ご家族とスタッフが一緒に考え、お互いの意見を話し合い、ご利用者を支えていく関係を築いている。(感染症対策の為8月より面会や外出等制限している)リモート面会や電話にて家族との関係がとぎれないよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族との関わりを大切にし、帰宅や自宅周辺への外出等、行っていたが、昨年に続き今年度もコロナ感染症対策の為面会、外出等制限している状態である。希望時や状態報告の際電話にてご家族と会話出来るようつなげている。	位牌に水をあげたり、畑で野菜をつくり、収穫して調理するという在宅時と変わらない生活が営まれています。また、馴染みの美容院も利用を継続しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が日中リビングですごされ、自然にご利用者同士の会話や助け合いなどの良い関係が築かれている。また、ご利用者同士のトラブルには迅速に対応し、関係が悪くならないように支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族やご利用者の希望に合わせて同敷地内にある特養や居宅介護支援事業所との連携を図り、他サービスの紹介や介護に関する知識、情報提供等もおこない、契約解除後も支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の普段の生活状況を良く観察し、希望や意向、ご本人がどのような生活を望んでいるか等を把握するよう努めている。また、それらをケアプランに反映させている。	日々の関わりの中から本人の思いを把握できるように取り組んでいます。職員の気づきは口頭あるいは連絡ノートで伝え、共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からのお話をよく聞き、把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望等を聞き、必要に応じかかりつけ医や専門医の意見を頂きながらケアプランを作成し、援助している。	アセスメントツール等、日々の記録を基にカンファレンスが行われ、本人、家族の意向が反映された介護計画が作成されています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌等に詳しく記録し、また、スタッフ間で連絡ノートを活用し、確実な申し送りを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医や協力病院、消防署等とも連携を図り、安心して生活出来るよう援助している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望に応じ納得したかかりつけ医を受診できるようにしている。本人の訴えや心身の状態を医師に報告し適切な治療が受けられるように支援している。緊急時には協力病院である市立角館総合病院で対応できるよう体制を整備している。	それぞれの希望に応じて支援しています。協力医による訪問診療が行われており、緊急時の連絡体制も整っています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に併設されている特養の看護師はもちろん、西明寺診療所の看護師へも相談でき、アドバイスを受けながら支援できる体制を整備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師や看護師、ケースワーカー等と情報交換を行い、入院中でも状態の把握や家族の相談に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を伺うと共に、医師の意見や診断をもとに、事業所として「できること・できないこと」をはっきりと見極め、今後のケアの方針についてご家族と事業所が納得できるよう話し合い、了承を得てケアにあたっている。	機能が著しく低下し、ホームでの対応が困難になった場合は法人内で対応できることも伝えながら、次の支援に繋げており、家族の了承も得られています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを把握しているほか、スタッフ会議や申し送り等でも随時確認している。また、スタッフは救命講習を受講しており、研修等にも参加し、いざという時に実践できるよう努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火避難訓練(夜間・日中想定)を行い、利用者、職員が参加し実施している。以前は地域の方に参加し協力いただいていたがコロナ感染症対策の為、地域の方の参加を中止している状況。	敷地内での法人の協力体制を取り決めています。緊急時の一時避難場所を決めている他、毎月26日を防災の日と定め、備蓄品の確認や設備点検を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事や入浴、排泄等日常のケアにおいてプライバシーに配慮した声かけを行い、ご本人の意思を尊重した対応をしている。	一人ひとりの性格や個性に配慮した対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒にその日着る服を選んだり、馴染みや愛着のある服などを持参していただいている。日常的に鏡を見ることが出来、ご本人自身も身だしなみを意識できるよう援助している。また、馴染みの美容院も利用できるよう援助している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好むものや昔食べた懐かしいもの、季節のもの等をメニューに取り入れ、調理や下ごしらえ、後片付け等を一緒に協力して行えるよう援助している。	畑の野菜づくりや山菜の処理には昔培った力が十分に発揮されています。収穫した野菜や栗を調理したり、ホームで桜を観ながらお弁当を食べたり等々、食事を楽しむ工夫をしています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については併設する特養の栄養士にアドバイスをもらい活かしている。また、必要に応じ食事チェック表を活用して一人一人の摂取量を把握している。また、ご本人の状態に合わせ、食事時間以外にも水分補給や補食等を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前、起床後の口腔ケアを支援している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗による不快感や羞恥心を抱かせないよう一人ひとりの排泄パターンを把握し本人の希望やサインを見逃さずトイレで排泄できるように支援している。	布パンツのみの方もおりますが、個々の状態に応じて排泄用品が使用できるよう支援しており、トイレで排泄しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳を提供し献立に食物繊維を多く取り入れたり体操を行う事で便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の気分や状態に合わせ柔軟に援助している。また、足浴や清拭、衣類交換等の援助も行い、清潔保持に努めている。	週2回以上入浴できるよう対応しています。強い拒否の方はおりませんが、シャワーだけにしたい等、その日の希望に合わせた支援が行われています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人一人の生活パターンを把握しながら、夜間よく眠れるよう、日中の活動援助等を行っている。日中もご本人の希望やタイミングで休息を取れるよう援助している。昼夜逆転もなく全ご利用者の生活リズムが整っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効果、副作用、用法や用量などをよく把握し、いつでも確認できるようにしている。必要時はかかりつけ医や薬剤師に確認できる環境である。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、畑など、生活歴やできる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るよう努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事、畑など、生活歴やできる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るよう努めている。希望時散歩に付き添っている。	四季の移ろいを感じることができる環境であり、天気の良い日には敷地内を散歩しています。ホームに居ながら桜を鑑賞することもできますが、ドライブを兼ねて桜を観に出かける等、あえて戸外で過ごすことができるよう支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金についての要望や不安等があった際にはスタッフが説明したり、一緒に確認するなど、ご本人が納得、安心できるよう援助している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を置くなど、温かい雰囲気作りにも努めている。不快な臭いがないよう防臭や衛生管理に努めている。	職員が自宅から持参した花で季節感を取り入れています。ウッドデッキ越しに子供たちの活動の様子や桜を眺めたり、洗濯物をたんだりできる小上がりの畳スペースや廊下の一角にある休憩スペースが利用者の生活に有効に活かされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、掘りごたつなどがあり、一人一人が思い思いに過ごせるような環境を整え、支援している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族とも話し合いながら使い慣れたものや好みのものを活かし、安心して生活できるものになるよう工夫している。	収納スペースが備え付けになっており、利用者はテレビや位牌等を持ち込んでいます。布団で休む方もおり、在宅時と同様の暮らし方ができるように家族が環境づくりに協力しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを表示している。浴室やトイレ、廊下には手すりを設置し安全面に考慮しながら出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		